

総合実践

教科	商業	単位数	3	学科・学年	総合ビジネス科・3年生
使用教科書	「総合実践 企業取引を学ぶ 三訂版」 (実教出版)			副教材等	「関商工実践要項」

◇学習の到達目標◇

- ① 商業の各分野に関する知識と技術を実践的活動を通して総合的に習得します。
- ② ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を身に付けます。

◇科目の特色◇

社会人として必要な挨拶や言葉遣い・ビジネスマナーについて学習します。グループで会社を組織し、実際の会社で働くように模擬取引を行います。

◇学習の計画◇

月	単元名	主な学習活動
4 5	【基礎編】 1) 総合実践の学習 2) ビジネスマナー 3) 実践要項の確認 4) 名刺の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合実践の意義と目的を理解する。 ・ 基本的なビジネスマナーを身に付ける。 ・ 関商工実践について、そのルールを学習する。 ・ 名刺の作成と扱い方について学習する。 <p style="text-align: right;">【前期中間考査】</p>
6 7 8 9	【実践編】 1) 確定取引の開始 2) 掛代金の支払い 3) 給与の支払い 4) 月末諸経費の支払い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた取引手順に従ってビジネス活動をおこなう。 ・ 掛代金の支払い方法を理解し、支払いをおこなう。 ・ 給与台帳を作成し各種計算を理解し、給料を支払う。 <p style="text-align: right;">【前期期末考査】</p>
10 11 12	5) 自由取引の開始 6) 販売促進活動 7) 有価証券の売買	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕入計画・販売計画を立案し、取引規定に従い自由にビジネス活動を展開する。 ・ 取扱商品の売り込みや宣伝、市場調査などを行う。 ・ 余剰資金を用いた投資計画をたて、有価証券を売買する。
1 2	8) 決算業務 9) 企業分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算手続きと財務諸表の作成手順を理解する。 ・ 経営分析の手法と各種報告書の作成の方法を理解し、報告書を提出する。

◇評価の観点・方法◇

評価は、次の三つの観点から行います。

知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入、コンピュータを利用した帳簿作成ができる。 ・ 帳簿に基づき、財務諸表の作成ができるか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に気をつけながら行動することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業の諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができる。

◇担当者からのメッセージ◇

授業は実際の会社のような雰囲気で行われ、生徒も会社の従業員のような気持ちで授業に臨みます。社会人として必要な挨拶・言葉遣い・ビジネスマナーを中心に学び、さまざまな模擬取引を通して、文書作成や会計処理等を学習します。これまで学習したことを総まとめとして行う科目です。

原価計算

教科	商業	単位数	4	学科・学年・コース	総合ビジネス科3年生（総合コース）
使用教科書	「原価計算 新訂版」（実教出版）		副教材等	反復式原価計算問題集 全商簿記検定模擬試験問題集	

◇ 学習の到達目標 ◇

- ① 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得させ、原価の概念に理解する。
- ② 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を身につける。

◇ 科目の特色 ◇

原価計算の基本的な考え方と計算法及び工業簿記の記帳法を習得し、原価についての理解を深めます。日商簿記検定試験2級に向けての取り組みをします。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	1. 原価計算の基礎 2. 原価の費目別計算 3. 原価の部門別計算と製品別計算	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原価の意味と分類及び原価計算の目的と種類を理解する。 ・ 材料費・労務費・経費の分類、計算と記帳法及び予定価格を用いた合理的な計算方法を理解する。 ・ 原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定との関係、製造間接費の配賦法及び製造間接費差異の原因別分析方法を理解する。 ・ 部門別個別原価計算の基本的な流れについて理解する。 ・ 総合原価計算の特色及び月末仕掛品原価の計算と記帳法について理解する。 <p>【前期中間考査】</p>
7 9	4. 製品の完成・販売と決算 5. 標準原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場会計が本社会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳法について理解する。 ・ 製造業における決算の特徴と製造原価報告書の作成方法を理解する。 ・ パーシャルプランによる記帳法について理解する。 <p>【前期期末考査】</p>
10 12	6. 直接原価計算の基礎 7. 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接原価計算の方法及び直接原価計算による損益計算書の作成方法について理解する。 ・ 売上高、原価、利益の関係について理解する。 ・ 答練問題、演習問題に取り組む。 <p>【後期中間考査】</p>
1 3	7. 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答練問題、演習問題に取り組む。 <p>【後期期末考査】</p>

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技能の習得に意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけている。
思考・判断・表現	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し表現する能力を身につけている。
技能	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、原価計算から得られる情報を的確に処理することができる。
知識・理解	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造を理解している。

このため、具体的には次のものを対象にします。

- ① 授業中における学習態度
- ② 課題等への取り組み状況
- ③ 問題集や課題プリントの提出物
- ④ 定期考査
- ⑤ 検定試験
- ⑥ 休暇中の課題と課題テスト

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決めます。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

原価の計算方法および工業簿記の仕組み・帳簿への記帳方法、原価情報の活用などについて学習します。

課題研究

教科	商業	単位数	3	学科・学年	総合ビジネス科 3年生（総合コース）
使用教科書	なし			副教材等	テーマに準じて教師から指定

◇ 学習の到達目標 ◇

- ①商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。発表会をおこなうことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力（特に話す力）を高めるようにします。
- ②朝学習R-Timeを通して、基礎基本の定着を図るとともに、商業に関する技術の向上を目指します。

◇ 科目の特色 ◇

- ①調査・探究・研究・実験 ②作品制作 ③産業現場等における実習 ④資格取得
- ※上記①～④から内容選択し具体的な目標を自ら設定して取り組みます。年度末には成果を発表し評価をします。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 5 6	1. 年間計画作成 2. 目標達成に向けて	自ら設定した目標にもとづき、自主的に学習に取り組みます。
7 9	3 学習計画の見直し	①③については積極的に地域に出かけ、課題を見つけ、解決するために創意・工夫をおこなうようにします。 ②についてはビジネスの諸活動の中で要求されるテーマを設定し取り組みます。 ④については「マーケティング」「ビジネス経済」「会計」「ビジネス情報」の各分野に関する資格取得を目指すものとします。
1 2	4 学習発表	学習活動のねらい ①②③については、特に地域社会との連携を強化し将来のスペシャリストになるための基礎・基本を身に付けます。 ④については生涯学習の意義を理解するとともに厳しい社会環境のなかでも、将来の進路の幅を広げるための学習に取り組みます。また、問題解決能力を向上させます。

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	学習内容について興味を持ち、積極的に取り組んでいる。また、実習や机上の学習で積極的に取り組んでいる。
思考・判断・表現	学習内容について自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫ができる。
技能	学習内容に沿った取り組みのなかで、ビジネスの諸活動を計数的に把握したり、調査・探究・研究の結果を適切にまとめて報告しているか。また、ビジネスの諸活動のなかで生きるデザインがなされている。
知識・理解	学習内容に関する専門的な知識を身につけることができた。また、意義や役割等が理解できた。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- | | |
|-------------|-----------|
| ①課題への取り組み状況 | ②課題の提出状況 |
| ③出席状況 | ④課題研究ノート |
| ⑤レポート・作品発表会 | ⑥検定資格取得状況 |
- また1年間の評価は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決めます。
※定期考査は実施しません。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

課題研究は、2年生までに学んだ「簿記」「情報処理」「ビジネス基礎」「マーケティング」などで身につけた知識や技術を活用し、積極的に地域へ出かけて学習をします。個人の創造力を磨き、チームで成果を出していくなど、将来の就職活動を円滑に進めていくためにも必要な科目です。

財務会計Ⅱ

教 科	商 業	単位数	4	学科・学年	総合ビジネス科3年生（会計コース）
使用教科書	使える財務会計Ⅱ（ネットスクール出版）			副教材等	TACテキスト・トレーニング1級

◇学習の到達目標◇

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指します。

◇科目の特色◇

- ①財務会計とは利害関係者に対して情報を提供するために必要となる企業会計です。財務会計によって企業の財政状態や経営成績、企業価値などを明らかにすることができます。
- ②全商財務会計検定の取得を目指します。

◇学習の計画◇

月	単元名	主な学習活動	
4 5 6	Ⅱ 1 税金・税効果会計 2 現金預金 3 金銭債権・貸倒引当金 4 有価証券 5 外貨建換算会計 6 デリバティブ取引 7 有形固定資産 8 リース取引 9 無形固定資産・投資その他の資産	・財務会計についての基本的な知識やルール、簿記の一連の流れを確認する。 ・現金預金、金銭債権・貸倒引当金、有価証券、外貨建換算会計、デリバティブ取引、有形固定資産、リース取引、無形固定資産・投資その他の資産に関する取引を学習する。 <div style="text-align: right;">【前期中間考査】</div>	
	7 8 9	10 繰延資産、研究開発費等 11 引当金 12 退職給付会計 13 社債 14 純資産	・繰延資産・研究開発費等、引当金、退職給付会計、社債、純資産に関する取引を学習する。 <div style="text-align: right;">【前期末考査】</div>
	10 11 12	Ⅲ 1 本支店会計 2 企業結合、合併 3～8 連結会計 9 株式交換・会社の分割など 10 外貨建財務諸表項目 11 キャッシュ・フロー計算書 ・全商財務会計検定	・本支店会計、企業結合・合併、連結会計、株式交換・会社の分割、外貨建財務諸表項目、キャッシュ・フロー計算書に関する取引を学習する。 ・全商財務会計検定を受験する。 <div style="text-align: right;">【後期中間考査】</div>
	1 2	・発展的な学習	・1級のさらに発展的な内容を学習する。 <div style="text-align: right;">【学年末考査】</div>

◇評価の観点・方法◇

評価は、次の三つの観点から行います。

知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする（テスト）
思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う（テスト・レポート）
主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（レポート・授業態度）

◇担当者からのメッセージ◇

「財務会計Ⅱ」は2年時に学んだ「財務会計Ⅰ」のさらに発展的な内容です。「財務会計Ⅰ」が日商簿記2級レベルであるのに対し、「財務会計Ⅱ」は日商簿記1級レベルの内容となっています。日商簿記2級が「中小企業の簿記会計」であるのに対し、日商簿記1級は「大企業の簿記会計」といわれるため、この科目を学習することで大企業が行っているビジネスに関連した会計処理が理解できるとともに、経済社会の中で企業がどのような戦略をとって経営活動をおこなっているのかを理解することができます。この科目を学ぶことで経済やビジネスの面白さを発見しましょう。

管理会計

教科	商業	単位数	4	学科・学年	総合ビジネス科3年生（会計コース）
使用教科書	楽しい管理会計（ネットスクール出版）			副教材等	TACテキスト・トレーニング1級

◇学習の到達目標◇

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に有用な会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。

◇科目の特色◇

- ①管理会計とは企業内部の経営管理者が利益管理や意思決定などの経営戦略を考えるうえで必要となる会計情報を作成するために必要な会計です。管理会計によって企業は現状を分析し、将来を予測し、よりよい経営活動を目指すことができます。
- ②全商管理会計検定の取得を目指します。

◇学習の計画◇

月	単元名	主な学習活動
4 5 6	Ⅲ 1 経営管理のための会計情報 2 直接原価計算 3 直接標準原価計算 4 企業予算の編成 5 原価・営業量・利益関係の分析 6 最適セールスマックスの決定	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計のための会計情報についての知識を深める。 ・予算管理のための直接原価計算、直接標準原価計算、企業予算編成、CVP分析、最適セールスマックスを学習する。 <p style="text-align: right;">【前期中間考査】</p>
7 8 9	7 事業部の業績測定 8 予算実績差異分析 9 差額原価収益分析 10 業務執行上の意思決定 11 設備投資の意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内の業績評価・意思決定のための業績測定、予算実績差異分析、差額原価収益分析、業務的意思決定、構造的な意思決定を学習する。 <p style="text-align: right;">【前期末考査】</p>
10 11 12	12 戦略の策定と遂行のための原価計算 ・全商管理会計検定	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい原価計算方法である活動基準原価計算、品質原価計算、原価企画、維持、改善活動、ライフサイクルコストリングを学習する。 ・全商管理会計検定を受験する。 <p style="text-align: right;">【後期中間考査】</p>
1 2	・発展的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な内容を学習する。 <p style="text-align: right;">【学年末考査】</p>

◇評価の観点・方法◇

評価は、次の三つの観点から行います。

知識・技術	管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(テスト)
思考・判断・表現	会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。(テスト・レポート)
主体的に学習に取り組む態度	適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(レポート・授業態度)

◇担当者からのメッセージ◇

管理会計は、企業内部の経営管理者のための会計です。近年、企業を取り巻く環境が激変したことにとともに、持続的競争優位を保つための新たな原価計算情報が注目されています。これをこれまでの伝統的な原価計算とともにしっかりと学ぶことで、企業が日進月歩で成長を続けてきた軌跡を感じることができます。管理会計の考え方は企業にとってだけでなく、私たちの生活にも応用できます。例えば、自動車を買うという意思決定であったり、欲しいものを購入するための毎月の支出額の見直しであったり、さまざまなことが管理会計から学べます。この科目を学び、自分の人生をよりよいものにしてほしいと思います。

課題研究

教科	商業	単位数	3	学科・学年	総合ビジネス科3年生（会計コース）
使用教科書	なし			副教材等	課題研究レポート

◇学習の到達目標◇

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスの通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指します。

◇科目の特色◇

- ①これまで身に付けた簿記・会計に関する知識及び技術を活用し、企業の財務諸表を分析する力を身に付けるとともに、現代社会の課題を発見し、それを解決するための方法を探究する。
- ②全商財務諸表分析検定の取得を目指します。

◇学習の計画◇

月	単元名	主な学習活動
4 5 6	I 1 企業の財務諸表分析 2 金融の仕組みと役割 3 経済の仕組みと役割 4 投資の仕組みと役割 5 税金の仕組みと役割	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表分析の指標を学習し、実際の企業の財務諸表を分析し、企業の実態を明らかにする。 ・金融・経済・投資・税金とは何かを学習し、企業価値の算定や投資家の視点での企業のあるべき姿を考える。（日経ストックリーグの活用）
7 8 9	【租税教室】 6 現代の課題を解決する方法の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の課題を発見し、それを解決するための方法を探究する。
10 11 12	7 中間発表 ・全商財務諸表分析検定	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの探究活動の成果を発表する。 ・全商財務諸表分析検定を受験する。
1 2	8 課題研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの探究活動の成果を発表する。

◇評価の観点・方法◇

評価は、次の三つの観点から行います。

知識・技術	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。（テスト）
思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。（テスト・レポート）
主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（レポート・授業態度）

◇担当者からのメッセージ◇

課題研究という科目で必要な力はたくさんありますが、何よりも「自ら学ぶ」という姿勢が重要です。先生が授業を行ってそれをノートにまとめるといった科目とは違います。テーマに対してインターネットや書籍等を使って自分で調査し、整理し、それをもとに自分の意見を考え、他人に伝えるということが中心となってきます。これまでに学んだ商業の専門的な知識及び技術を活用し、さまざまな現代社会の課題を発見し、それを解決するためにどのようなことを実践していくべきなのかを客観的・科学的な根拠に基づいて説明する力を養うことが目的です。総合ビジネス科としての学びの集大成となる科目であることを十分に理解してください。そして、この課題研究を通して自分自身が現代社会のさまざまな諸問題に対して当事者意識をもつことの重要性を理解し、その解決をするための一員であることを自覚することが社会人の第一歩であることが認識できる人になってほしいと思います。企業、金融、経済、投資、税金などの知識を深め、現代社会の課題を考えることはこれからの自分のライフプランに繋がることです。自分の人生をよりよくするという視点も合わせて、この課題研究という科目で多くの学びを得ましょう。

課題研究

教科	商業	単位数	3	学科・学年	総合ビジネス科 3年生（流通コース）
使用教科書	なし			副教材等	テーマに準じて教師から指定

◇ 学習の到達目標 ◇

- ①商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。発表会をおこなうことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力（特に話す力）を高めるようにします。
- ②朝学習R-Timeを通して、基礎基本の定着を図るとともに、商業に関する技術の向上を目指します。

◇ 科目の特色 ◇

- ①調査・探究・研究・実験 ②産業現場等における実習
 ※上記の内容選択し具体的な目標を自ら設定して取り組みます。年度末には成果を発表し評価をします。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 5 6	1. 年間計画作成 2. 目標達成に向けて	自ら設定した目標にもとづき、自主的に学習に取り組みます。 ①については積極的に地域に出かけ、課題を見つけ、解決するために創意・工夫をおこなうようにします。 ②についてはビジネスの諸活動の中で要求されるテーマを設定し取り組みます。
7 9	3 学習計画の見直し	学習動のねらい ①②については、特に地域社会との連携を強化し、将来のスペシャリストになるための基礎・基本を身に付けます。
1 2	4 学習発表	

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	学習内容について興味を持ち、積極的に取り組んでいる。また、実習や机上の学習で積極的に取り組んでいる。
思考・判断・表現	学習内容について自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫ができる。
技能	学習内容に沿った取り組みのなかで、ビジネスの諸活動を計数的に把握したり、調査・探究・研究の結果を適切にまとめて報告しているか。また、ビジネスの諸活動のなかで生きるデザインがなされている。
知識・理解	学習内容に関する専門的な知識を身につけることができた。また、意義や役割等が理解できた。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- | | |
|-------------|-----------|
| ①課題への取り組み状況 | ②課題の提出状況 |
| ③出席状況 | ④課題研究ノート |
| ⑤レポート・作品発表会 | ⑥検定資格取得状況 |
- また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決めます。
 ※定期考査は実施しません。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

課題研究は、2年生までに学んだ「簿記」「情報処理」「ビジネス基礎」「マーケティング」などで身につけた知識や技術を活用し、積極的に地域へ出かけて学習をします。個人の創造力を磨き、チームで成果を出していくなど、将来の就職活動を円滑に進めていくためにも必要な科目です。

セールスマネジメント

教科	商業	単位数	4	学科・学年・コース	総合ビジネス科3年生 (流通・専門コース)
使用教科書	なし			副教材等	販売士検定試験2級ハンドブック 他

◇ 学習の到達目標 ◇

小売業について主として販売に関する専門的な知識と技術を習得するとともに、小売業で行われている人的販売の実践と管理業務について理解し、将来、指導者の立場で業務を遂行できる能力と態度を身に付けます。

◇ 科目の特色 ◇

小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理について経営者の視点に立ち、販売活動に考慮したマーケティング活動を主体的・創造的に取り組みながら実践的・体験的な学習や実習を行います。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	<ul style="list-style-type: none"> ・リテールマーケティング検定試験2級ハンドブック (1) 小売業の種類 (2) マーチャンダイジング (3) スタオペレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーションについて学習し、重要用語の意味を理解し、様々な知識と技術を習得する。 <p style="text-align: right;">【前期中間考査】</p>
7 9	<ul style="list-style-type: none"> (4) マーケティング (5) 販売・経営管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングおよび販売・経営管理について学習し、重要用語の意味を理解し、様々な知識と技術を習得する。 <p style="text-align: right;">【前期期末考査】</p>
10 12	<ul style="list-style-type: none"> ・商業経済分野の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内にみならず、諸外国にも目を向けるグローバルな視野を身に付けることを目的とし、商業経済分野である「ビジネス経済」「国際ビジネス」について学習する。 <p style="text-align: right;">【後期中間考査】</p>
1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・リテールマーケティング検定試験2級受験 (1月) ・1年間のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験対策学習 ・3年間の学びを振り返り、社会人として必要な知識のみならず、気質、態度等も身に付ける実習を行う。 <p style="text-align: right;">【後期期末考査】</p>

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	市場環境の変化に対応したマーケティング活動に関心を持つとともに、リテールマーケティングに関する資格を積極的に取得しようとする意思と姿勢がみられるか。
思考・判断・表現	市場調査や販売、仕入にかかわる一連の活動について、場面に応じた計画的、合理的な手順を考えることができ、表現することができるか。
技能	特に実習を通して、接客技術職場における販売員管理に必要な技術、店舗設計等に関わる技術などを身に付けられているか。
知識・理解	マーケティングが果たす役割や意義を理解し、販売・経営管理の方法や顧客満足実現のための方策など基礎的な知識を身に付けているか。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- | | | |
|----------------|--------------|-------|
| ①授業中における学習態度 | ②課題等への取り組み状況 | ③出席状況 |
| ④問題集やノートなどの提出物 | ⑤定期考査 | ⑥検定試験 |
| ⑦授業プリント | | |

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決めます。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

ハンドブックを中心に学習します。検定前は、過去問題や予想問題などを効果的に使用し、合格に向けた検定対策も実施しています。「絶対に合格する！」という強い気持ちをもって挑みましょう。

商品開発

教科	商業	単位数	4	学科・学年	総合ビジネス科3年生 総合コース・流通専門コース
使用教科書	「商品開発」(実教出版)		副教材等	「商品開発問題集」実教出版	

◇ 学習の到達目標 ◇

- ①商品開発に関する知識と技術を習得し、顧客満足を実現することの重要性について理解します。
②商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を身に付けます。

◇ 科目の特色 ◇

商品開発とその流通について学ぶ科目です。内容的には日常生活で使用・消費している商品には、どのような特徴があるのか、また、それらはどのようにして私たちの手元にまで届けられるのかを学習します。これらの学習を基に、実際に企業連携を図ります。

◇ 学習の計画 ◇

月	単元名	主な学習活動
4 6	第1章 商品と商品開発 第2章 商品の企画	・商品の成り立ちおよび何を商品として考えるのかについて理解します。 ・企業内の企画会議で提案することを想定して市場調査を行い、KJ法などを用いて商品コンセプトを考案する実習を行います。 【前期中間考査】
6 9	第3章 商品の開発	・機能テストや消費者テスト、市場テストなどの開発商品に関するテストの方法について理解する。 【前期期末考査】
10 12	第4章 商品開発とデザイン 第5章 商品開発と知的財産権	・グラフィックデザインの技法を習得させ、実際にPOP広告や広告ポスターを作成する実習を行います。 ・知的財産権の権利化の意義について理解させる。 【後期中間考査】
1 3	第6章 商品流通と流通を支える活動 第7章 総合実習	・プライベートブランド商品の開発の意義について理解させる。 【学年末考査】

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	商品活動に関する諸活動を主体的に考える、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深め表現できる。
技能	商品を企画・開発し、流通させるために必要な技術、商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付けている。
知識・理解	商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。また、顧客満足を実現することの重要性について理解している。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- ①授業中における学習態度 ②問題集やノート・レポートなどの提出物
③定期考査 ④課題への取り組み状況

また1年間の評価は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決定します。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

商品開発に関する基礎・基本を学び、実際に企業との連携にも取り組む学習内容です。身近な事例を取り上げながら、商品開発を通して消費者ニーズをつかみ、顧客満足を実現することの重要性を学びます。

ビジネス経済応用

教科	商業	単位数	2	学科・学年・コース	総合ビジネス科3年（総合・流通コース）
使用教科書	「ビジネス経済応用」（実教出版）		副教材等	随時指示	

◇ 学習の到達目標 ◇

- ① 経済社会の動向について理解し、ビジネスに必要な経済に関する知識を習得します。
- ② 経済に関する知識を応用して、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を養います。

◇ 科目の特色 ◇

- ・ 現代経済において経済理論が果たす役割を学習し、ビジネスに必要な経済に関する応用的な知識を習得します。
- ・ 日常生活における経済の仕組みや概念について学習し、経済に関する応用的な理論を基に、経済事象を主体的に考える能力と態度を養います。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	1. 第1章 サービス経済化とサービス産業 2. 第2章 経済の国際化	・ 我が国における産業構造の変化及びサービス産業が進展した要因について学習します。 ・ 国際収支の概念、自由貿易の重要性、貿易が経済発展に及ぼす影響や課題について学習します。
7 9	3. 第3章 金融市場と資本市場	・ 金融取引が発達してきた現状について具体的な事例を取り上げて学習します。また金融市場と資本市場の課題について、経済の国際化と関連付けて学習します。
10 12	4. 第4章 企業経営	・ 我が国の企業の組織や経営理念についての具体的な事例を取り上げ、企業の特徴について学習します。また経済の国際化に対応する企業の現状と課題について学習します。
1 2	5. 第5章 ビジネスの創造と地域産業の振興	・ 地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査や研究を通して、地域産業の振興への寄与の在り方について学習します。

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・ 経済や企業経営について関心を持ち、経済社会の動向について理解することを目指し、主体的に取り組もうとしているか。
思考・判断・表現	・ 経済社会の動向について理解することを目指して、思考を深め、経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、外部に表現する創造的な能力を身に付けているか。
技能	・ 経済社会への動向への考察やサービス経済社会に適切に対応する基礎的・基本的な技術を身に付け、活用することができるか。
知識・理解	・ 経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、サービス経済社会に適切に対応することの重要性について理解しているか。

このため、具体的に次のものを対象とします。

- ① 授業中における学習態度
- ② 課題への取り組み状況
- ③ 出席状況
- ④ プリント・小テスト評価
- ⑤ 定期考査

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決定します。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

経済学の応用を学び、地域ビジネスについて研究し、地域産業の振興への寄与のあり方について考えよう！

ビジネス経済

教科	商業	単位数	2	学科・学年・コース	総合ビジネス科3年（総合・流通コース）
使用教科書	「ビジネス経済」（実教出版）		副教材等	随時指示	

◇ 学習の到達目標 ◇

- ①ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を学習し、経済の仕組みや概念について理解します。
- ②経済事象を主体的に考えることができる能力と態度を養います。

◇ 科目の特色 ◇

- ・現代経済において経済理論が果たす役割を学習し、ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を習得します。
- ・日常生活における経済の仕組みや概念について学習し、経済に関する基礎的な理論を基に、経済事象を主体的に考える能力と態度を養います。

◇ 学習の計画 ◇

月	単元名	主な学習活動
4 6	1. 第1章 市場と経済 2. 第2章 需要と供給	・市場と経済について学び、さまざまな財における最も効率的な配分方法を学習します。 ・正しい経営戦略の方向性、価格や所得の変化から需要量の変化を学習します。
7 9	3. 第3章 価格決定と市場の役割 4. 第4章 経済成長と景気循環	・消費者の嗜好の変化などによる需要により、価格が決定され、価格が市場にどのような変化をもたらすかを学び、物価指数、物価上昇率を求める学習をします。
10 12	5. 第4章 経済成長と景気循環	・経済成長と景気循環について実質GDPから経済成長率を求める学習をします。 ・生産技術の水準と経済成長の関係を理解し、わが国がイノベーションを求める背景について学習します。
1 2	6. 第5章 経済政策	・わが国の予算制度の特徴と課題、国民負担率に関する諸問題を取り上げ、経済政策についての的確に表現することができるように学習します。

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・現在の経済状態について関心をもち、その展望について自らの考えを整理する意欲や態度が身についているか。 ・基礎的なマクロ経済理論を基に、景気の循環や経済政策の影響などの経済事象を主体的に考察する能力と態度が身についているか。
思考・判断・表現	・経済活動に関する諸問題を理解し解決するために、日頃から自らの思考を深めているか。 ・経済に関する自らの意見を的確に表現する能力が身についているか。
技能	・経済に関するさまざまな情報や資料を各メディアから収集し、そのなかから適切なものを選択して、主体的に活用する能力が身についているか。
知識・理解	・経済に関する基礎的・基本的な知識と見識を身につけ、それを現実の諸問題に適用できる水準まで理解を深めているか。

このため、具体的に次のものを対象とします。

- ①授業中における学習態度
- ②課題への取り組み状況
- ③出席状況
- ④プリント・小テスト評価
- ⑤定期考査（前期中間のみ）

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決定します。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

経済学の基礎を学び、私たちの日常生活が経済活動と密接に関わっていることを理解しましょう。

電子商取引

教科	商業	単位数	4	学科・学年・コース	総合ビジネス科3年（情報コース）
使用教科書	電子商取引 （東京法令出版）			副教材等	30時間でマスターシリーズ Webデザイン

◇ 学習の到達目標 ◇

- ① 情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術を学び、情報通信ネットワークの活用を通じてその意義や課題についても学習します。
- ② 情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を学習します。
- ③ 朝学習R-timeを通して、基礎・基本の定着を図るとともに、商業に関する技術の向上を目指します。

◇ 科目の特色 ◇

- ① Webデザイン制作の技術を習得し、作品を制作します。
- ② 地元企業と連携して、企業のニーズにあったWebをチーム等で制作します。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス 第2章 コンテンツの制作	情報通信ネットワークの発達がビジネスにどう変化をもたらしたかを学習し、電子商取引について学習します。 副教材を利用し、Web制作の基礎・基本的事項を学習します。
7 9	第3章 ウェブデザインと広告・広報	4-6月に学んだ内容を活かして、Webページを作成していきます。 チーム等でクライアント（企業）のニーズを調査し、それにあつたWebページを制作します。
10 12	第4章 ウェブページの公開	引き続きWebページを制作すると同時に、Webページをインターネット上に公開するために必要な準備を学習します。
1 2	第5章 電子商取引とビジネス	完成したWebページをクライアントに納品すると同時に、クライアントの営業活動（ビジネス）に活かす今後のWebページの更新方法について検討する。

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	Web ページデザインに必要な知識・技術に興味を持ち、意欲的にコンテンツ制作に取り組んでいる。
思考・判断・表現	使用するソフトウェアの操作方法を習得し、適切な文書や作品をWeb ページとして作成することができる。
技能	使用するソフトウェアの操作方法を習得し、効果的にデザインすることができる。
知識・理解	Web デザインに必要な知識を理解し、活用している。

このため、具体的に次のものを対象とします。

- ① 授業中における学習態度
 - ② 課題への取り組み状況
 - ③ 出席状況
 - ④ 作品・発表評価
 - ⑤ 定期考査（なお④を考査の代替にする場合あり）
- また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決定します。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

前半は主に教科書や副教材を使用して、Web制作の基礎・基本を学びます。後半は、本校が永く実施している地元企業のWeb制作を、チーム等編成して実施していきます。企業の方やチーム内でのコミュニケーションを大切にして、より良いWebページが完成するよう取り組んでください。

財務会計Ⅰ

教科	商業	単位数	4	学科・学年	総合ビジネス科3年生 (情報コース)
使用教科書	「高校財務会計Ⅰ」(実教出版)			副教材等	「最新段階式会計問題集 全商会計1級」(実教出版)

◇ 学習の到達目標 ◇

- ① 会計における基本的な考え方や処理法を習得し、財務諸表についての理解を深めます。
 ② 財務諸表から得られる情報を、ビジネスの諸活動に活用する能力と態度を身に付けます。

◇ 科目の特色 ◇

1年次に学習した簿記の内容を、さらに深く学習する科目です。全商簿記検定試験1級(会計)に向けての取り組みもします。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	1. 財務会計の基礎 2. 資産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業会計の意味、目的及び歴史を通して、会計の必要性を理解する。 ・ 会計法規の種類とその目的について理解する。 ・ 資産の意味・分類及び評価とその処理法を理解する。 <p style="text-align: right;">【前期中間考査】</p>
7 9	3. 負債と純資産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 負債の意味・分類及び評価とその処理法を理解する。 ・ 純資産の意味・分類及びその処理法を理解する。 <p style="text-align: right;">【前期期末考査】</p>
10 12	4. 損益計算 5. 財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 損益計算の意味を理解する。 ・ 報告式の貸借対照表を作成する。 ・ 報告式の損益計算書を作成する。 <p style="text-align: right;">【後期中間考査】</p>
1 3	6. 連結財務諸表 7. 財務諸表の活用 8. 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連結財務諸表を作成するための知識を身に付ける。 ・ 財務諸表分析の意味と方法を理解する。 ・ 総合問題を行い、理解度を確認する。 <p style="text-align: right;">【後期期末考査】</p>

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	企業会計の意味や役割と財務諸表の作成に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
思考・判断・表現	財務諸表分析の意味と内容を理解し、得られた結果をもとに、企業の財政状態・経営成績の良否が判断できる。
技能	企業会計における基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。報告式の財務諸表を作成するために必要な勘定科目の分類ができる。
知識・理解	企業会計における基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、報告式の財務諸表の作成法が理解できる。

このため、具体的に次のものを対象にします。

- ① 授業中における学習態度 ② 問題集やノートなどの提出物
 ③ 定期考査 ④ 検定試験
 ⑤ 休業中の課題と課題テスト

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決定します。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

高度な学習内容ですが、全商簿記検定試験1級(会計)合格目指して頑張りましょう。また、原価計算を学習すれば全商簿記検定試験総合1級取得のチャンスもあります。

課題研究

教科	商業	単位数	3	学科・学年	総合ビジネス科 3年生（情報コース）
使用教科書	なし		副教材等	課題研究ノート 他	

◇ 学習の到達目標 ◇

- ①商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化や総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につけます。研究発表会をおこなうことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力（特に話す力）を高めるようにします。
- ②朝学習R-timeを通して、基礎・基本の定着を図るとともに、商業に関する技術の向上を目指します。

◇ 科目の特色 ◇

- ①調査・研究・実験 ②作品制作 ③産業現場等における実習 ④資格取得
- ※上記①～④から内容選択し具体的な目標を自ら設定して取り組みます。年度末には成果を発表し評価をします。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 5 6	1. 年間計画作成 2. 目標達成に向けて	<p>前期（10月第3週まで）は基本情報技術者試験の合格を中心に、商業に関する各種の検定資格取得を目標に、自主的、積極的に取り組みます（科目の特色④）。</p> <p>後期は、地元企業と連携してWebコンテンツの制作に取り組みます。この活動は、科目の特色①～③に該当し、生徒自らが企業に出向いて、企業の方の要望を聞き、それに基づいて作品を制作・納品していく過程で、専門的な知識を身につけると同時に、グループで協働する姿勢を身につけます。</p> <p>年度末には、課題研究発表会でその成果を発表し、プレゼンテーション能力の向上を図ります。</p>
7 9	3 学習計画の見直し	
1 2	4 学習発表	

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	学習内容について興味を持ち、積極的に取り組んでいるか。また、実習や机上の学習で積極的に取り組んでいる。
思考・判断・表現	学習内容について自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫ができる。
技能	学習内容に沿った取り組みのなかで、ビジネスの諸活動を計数的に把握したり、調査・研究の結果を適切にまとめて報告している。また、ビジネスの諸活動のなかで生きるデザインがなされている。
知識・理解	学習内容に関する専門的な知識を身につけることができたか。また、意義や役割等が理解できた。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- | | |
|-------------|-----------|
| ①課題への取り組み状況 | ②課題の提出状況 |
| ③出席状況 | ④課題研究ノート |
| ⑤レポート・作品発表会 | ⑥検定資格取得状況 |
- また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決めます。
※定期考査は実施しません。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

課題研究は、商業科目の集大成として位置づけられています。情報コースでは難関の国家試験合格を目標とすると同時に、後期からは地元企業のWeb制作に取り組んでいきます。企業の方との意見交換を通じて、世代を超えた人たちとのコミュニケーション力の向上を目指します。

財務会計Ⅱ

教科	商業	単位数	2	学科・学年・コース	総合ビジネス科 3年生 (進学クラス)
使用教科書	財務会計Ⅱ			副教材等	なし

◇ 学習の到達目標 ◇

- ①財務会計に関する知識と技術を習得させ、経済社会における会計責任が果たす重要性について理解します。
 ②会計情報を利害関係者に提供し活用する能力と態度を身につけます。

◇ 科目の特色 ◇

財務諸表の基礎、貸借対照表に関する会計、外貨建会計、キャッシュ・フロー会計に関する会計処理の基礎的・基本的な内容について学習します。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 5	1. 財務諸表の基礎	・財務諸表の概要を理解する。 【前期中間考査】
6 9	2. 貸借対照表に関する会計 3. 外貨建会計	・資産・負債・純資産の会計について理解する。 ・外貨建取引とその会計処理について理解する。 ・為替換算と為替予約について理解する。 【前期期末考査】
10 12	4. 財務諸表分析の理論	・財務諸表の種類や入手方法について理解する。 ・財務諸表分析の目的と方法を理解する。 ・企業管理と株主のための分析方法を理解する。 ・企業間比較、期間比較を行い、分析する。 【後期中間考査】
1	5. キャッシュ・フロー会計	・キャッシュ・フロー計算書の作成および手続き方法について理解する。 【学年末考査】

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	新しい分野の会計に関心を持ち、その基本的かつ実践的な知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むことができる。
思考・判断・表現	計算や会計処理を行う根拠についてなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切な判断をすることができる。
技能	ビジネスの諸活動を計数的に理解し、適切な処理法を身に付け、それを分かりやすく説明することができる。
知識・理解	新しい分野の会計に関する知識を身に付け、新会計基準や税法の基本的な考え方・処理法などを理解している。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- ①授業中における学習態度 ②課題やノートなどの提出物 ③定期考査
 ④授業プリント ⑤検定試験の取得（財務諸表分析検定）

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決めます。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

「財務会計Ⅱ」の内容は難しいですが、大企業における会計処理について学習します。実際の会計の事情を理解し、企業の実態を把握する。

課題研究

教科	商業	単位数	3	学科・学年	総合ビジネス科3年生（進学クラス）
使用教科書	なし			副教材等	課題研究レポート

◇学習の到達目標◇

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスの通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指します。

◇科目の特色◇

- ①これまで身に付けた商業に関する知識及び技術を活用し、これからのビジネスが必要とする力を身に付けるとともに、現代社会の課題を発見し、それを解決するための方法を探究する。
- ②自分のキャリアに向けた進路を探究する。

◇学習の計画◇

月	単元名	主な学習活動
4 5 6	1 SDGsとは何か 2 SDGsと世界の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表分析の指標を学習し、実際の企業の財務諸表を分析し、企業の実態を明らかにする。 ・金融・経済・投資・税金とは何かを学習し、企業価値の算定や投資家の視点での企業のあるべき姿を考える。（日経ストックリーグの活用）
7 8 9	3 SDGsと企業の取り組み 4 SDGsと将来のビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の課題を発見し、それを解決するための方法を探究する。
10 11 12	5 中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの探究活動の成果を発表する。
1 2	6 課題研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの探究活動の成果を発表する。

◇評価の観点・方法◇

評価は、次の三つの観点から行います。

知識・技術	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。（テスト）
思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。（テスト・レポート）
主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（レポート・授業態度）

◇担当者からのメッセージ◇

課題研究という科目で必要な力はたくさんありますが、何よりも「自ら学ぶ」という姿勢が重要です。先生が授業を行ってそれをノートにまとめるといった科目とは違います。テーマに対してインターネットや書籍等を使って自分で調査し、整理し、それをもとに自分の意見を考え、他人に伝えるということが中心となってきます。これまでに学んだ商業の専門的な知識及び技術を活用し、さまざまな現代社会の課題を発見し、それを解決するためにどのようなことを実践していくべきなのかを客観的・科学的な根拠に基づいて説明する力を養うことが目的です。総合ビジネス科としての学びの集大成となる科目であることを十分に理解してください。そして、この課題研究を通して自分自身が現代社会のさまざまな諸問題に対して当事者意識をもつことの重要性を理解し、その解決をするための一員であることを自覚することが社会人の第一歩であることが認識できる人になってほしいと思います。